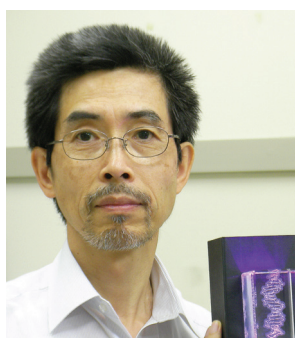


- 10) Possible One-dimensional Helical Conductor: exa-peri-hexabenzocoronene Nanotube, T. Hara, K. Furukawa, T. Nakamura, Y. Yamamoto, A. Kosaka, W. Jin, T. Fukushima and T. Aida, J. Phys. Soc. Jpn. **77** (2008) 034710 (6pages).
- 11) High field ESR measurements of quantum triple chain system  $Cu_3(OH)_4SO_4$ , S. Okubo, H. Yamamoto, M. Fujisawa, H. Ohta, T. Nakamura and H. Kikuchi, J. Phys.: Conf. Series **150** (2009) 042156 (4pages).
- 12) W-band ESR による分子性固体の物性研究, 古川 貢, 中村敏和, 日本赤外線学会誌 **16** 巻 2号 2007 p.40-44, 特集「ミリ波, テラヘルツ, 赤外分光の物性応用」
- 13) 光誘起相転移・光誘起現象の観点から迫る分子性固体, 中村敏和, 古川 貢, レーザー研究 **36** 巻 6号 2008 p.339-342 特集「光誘起相転移とその計測技術」
- 14) 有機導体・分子性固体の多彩な競合電子相 - 多周波数・パルス磁気共鳴による物性研究 - 中村敏和, 古川 貢, 岩瀬文達, まぐね **4** 巻 5号 2009 p.224-228 特集「磁気共鳴技術の最近の発展と話題」



かとう・たつひさ  
 1953年四国生まれ、四国育ち。1979年に京都大学大学院博士課程を中退後、分子科学研究所文部技官、1984年京都大学理学部助手、1992年分子科学研究所助教授、2004年4月より現職。研究テーマは、フラレンや有機分子の分子磁性に関する磁気分光学的研究。



みぞぐち・けんじ  
 1948年に東京で生まれる。1973年に東京都立大学大学院博士課程を中退後、同助手、1987年同助教授、その後半年間仏グルノーブルCENG基礎研・客員研究員、1989年金材技研客員研究員、1995年4月より現職。研究テーマは、多周波・加圧下ESRを中心手法とした有機導体の電子状態。週末テニスを楽しむ。グランドスラム大会の度に寝不足に。分子研では空のテニスコートを横目で眺めながら実験に専念。

## 共同利用研究 実施状況

### 平成20年度(後期)共同利用研究実施状況

協力研究	「RISM理論を用いたタンパク質の水和構造についての研究」を始め44件
UVSOR施設利用	「X線照射により生成する欠陥の発光測定」を始め84件
施設利用	「遷移金属錯体を含む高分子膜状の有機-無機複合材料の磁性測定」を始め40件

### 平成20年度(後期)分子研研究会

開催日時	研究会名	提案代表者	参加人数
2009年 1月23日(金)	プラズモニック物質と分子科学研究	上野 貢生 (北海道大学電子科学研究所)	39名
2009年 3月 5日(木) ~ 6日(金)	ピラジカル化学とその展望	安倍 学 (広島大学大学院理学研究科)	65名